

平成29年度

橋梁技術発表会及び講演会

参加費無料
定員 **200**名
申込先着順

平成29年

日時 **10** / **27** (金) 13:00~16:50

会場 **東建ホール・丸の内** (東建本社3F)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-1-33
TEL 052-232-8070

13:00~13:10 **開会の辞** 一般社団法人 日本橋梁建設協会 副会長 田中 進

13:10~13:25 **橋建協報告** ~協会を取り巻く環境と課題、取り組みについて~ 広報委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:05 **1. ロッキング橋脚を有する橋梁の大規模地震対策**
~名神高速道路 追分橋耐震補強工事~
架設小委員会 架設部会 青山 智明

14:05~14:15 休憩

14:15~14:55 **2. 大正時代のRC床版がどうして長期使用に耐えられたのか!**
~90年以上の使用に耐えた九年橋の撤去床版から劣化過程を探る~
床版小委員会 床版技術部会 春日井 俊博

14:55~15:35 **3. ここがポイント! 保全工事の設計・積算**
~設計・積算[施工]の観点から特殊な保全工事を紹介~
保全委員会 保全第2部会 谷口 好信

15:35~15:45 休憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45 **鋼橋の効率的・効果的な維持管理に向けた環境評価と防食技術の開発**

名古屋工業大学 准教授 永田 和寿



16:45~16:50 **閉会の辞** 公益社団法人 土木学会中部支部 支部長 服部邦男

申込方法 ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/> の「技術発表会申し込み受け」まで (受付は平成29年9月15日~10月13日)

申込期限 平成29年10月13日(金)

連絡先 一般社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所
〒456-8691 愛知県名古屋市熱田区三本松町1-1
日本車輛製造(株)内 TEL 052-882-3361

継続教育 土木学会認定CPD(継続教育)プログラム 国土土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム

他地区 東京地区は 10月13日(金) 銀座プロサラムホール
大阪地区は 10月18日(水) ドーンセンター
北海道地区は 11月 2日(木) 北海道経済センター
東北地区は 11月10日(金) 仙台国際センター
九州地区は 11月17日(金) レソラNTT夢天神ホール

にて開催です。

(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

技術発表会(第1部)の発表原稿(論文)は、当日配布をしております。ホームページに掲載しますので、各自ダウンロードして持参して下さい。(PPTの出力は当日配布します)

アクセス



●名古屋市中地下鉄 桜通線・鶴舞線「丸の内」駅下車 1番出口より徒歩1分

1 ロッキング橋脚を有する橋梁の大規模地震対策

～名神高速道路 追分橋耐震補強工事～

本橋は、名神高速道路の一部として昭和37年に建設された鋼3径間連続非合成箱桁橋である。両端部支点はRC逆T式橋台により、2箇所の中間支点は鋼製のロッキング橋脚により支持されている。架橋位置は滋賀県大津市の西部で、交通量が非常に多い国道1号並びに京阪電鉄と立体交差している。

本工事では、ロッキング橋脚を水平力が負担できる新設の鋼コンクリート複合橋脚に改築し、既存支承を免震支承に取替え、上部構造の慣性力を各下部構造に分散させ、長周期化とエネルギー吸収による減衰の向上により、レベル2地震に対応できる免震構造に改良した。

2 大正時代のRC床版がどうして長期使用に耐えられたのか!

～90年以上の使用に耐えた九年橋の撤去床版から劣化過程を探る～

過去の設計基準により建設された鉄筋コンクリート床版(以下、RC床版)は、現行の基準に適合していない床版厚や鉄筋量のまま使用されている場合、車両の大型化や交通量の増大の影響を受け、劣化事例が多く報告されている。

九年橋は、大正11年と昭和8年に建設され、建設当時のRC床版に補修補強等を施すことで、平成27年度に取替えられるまでの80～90年の間、使用環境の変化にも耐え、供用されてきた。

本研究では、直接荷重を受け、非常に厳しい使用環境となるRC床版が、長期間使用することができた理由を探るため、九年橋におけるRC床版の撤去前後に実施した調査結果をもとに、既設RC床版の劣化過程の推定を行った。

3 ここがポイント!保全工事の設計・積算

～設計・積算[施工]の観点から特殊な保全工事を紹介～

大規模更新事業が高速道路会社や都市高速道路会社などで検討されており、今後本格的な事業開始を迎えることが予想される。しかし、これまでに大規模更新(修繕)工事の事例は少なく、施工した会社では設計や施工(主に積算)において苦労しながら進めてきたことが予想される。

そこで、今年の保全委員会での発表は、大規模修繕工事に参考となり得る過去に行った規模の大きな補修・補強工事を振り返り、「概要」と「発注者およびコンサルが計画する際の設計・施工(積算)における留意点」に着目した発表を行うことで、大規模修繕工事の適切な計画と鋼橋保全事業の円滑な推進に寄与したい。

特別講演会 講演者紹介

鋼橋の効率的・効果的な維持管理に向けた 環境評価と防食技術の開発

永田 和寿 名古屋工業大学 准教授

—略歴—

1993年 3月 岐阜大学工学部土木工学科 卒業
1995年 3月 京都大学大学院工学研究科土木工学専攻博士前期課程 修了
1997年 9月 京都大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程 中退
1997年10月 京都大学大学院工学研究科土木工学専攻 助手
2003年 4月 京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 助手
2005年 5月 名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻 助教授
2007年 4月 名古屋工業大学大学院工学研究科社会工学専攻 准教授
現在に至る
この間
2004年9月～2005年3月 アメリカ・カリフォルニア大学サンディエゴ校
Visiting Scholar

—専門分野—

構造工学、耐震工学

講演概要

鋼橋における維持管理の重要性は言うまでもないが、適切で効果的な維持管理を行うためには鋼橋を取り巻く周辺環境を正確に把握する必要がある。しかし、個々の鋼橋において環境評価の調査を行った場合、多額の費用と膨大な時間を費やしてしまう。そのため、簡易な環境評価が可能であれば、鋼橋に対して優先順位を考慮したコスト削減による長寿命化への取り組みが可能となる。本講演では、腐食要因の一つである結露環境と塗膜の劣化要因である紫外線環境の調査と講演者が開発を進めているこれらの環境に対する評価手法について述べるとともに、現在開発を行っている防食に関わる技術について紹介を行う。

平成29年度

10月27日(金)

橋梁技術発表会

[中部地区]

参加申込方法



一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association Inc.

ホームページよりお申込み下さい。

<http://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」
の申し込みはこちら。